

幼児が落書きしやすい環境についての研究

Research concerning the environment which the young child is easy to scribble

Environment , Young child , Scribble

設計・情報研究室

G054085 東野 和也

G044023 荻谷 侑亮

1. 研究の背景と目的

これまで、落書きに関する研究は、様々行われてきた。主な研究は、落書きの抑止方法や除去方法、落書きが行われる目的などである⁽¹⁾⁽²⁾。

近年の研究で、落書きを引き起こす要因として、社会的主張や暇潰しなどが挙げられている。落書きは、これらの要因と、落書きが行われる場所や状況などの物理的環境、集団構成や人数構成などの対人的環境、他者からの視線の有無などの心理的環境によって左右される⁽³⁾。また、小学生以上による落書きが屋内外において確認されている⁽⁴⁾が、子供の落書きと大人の落書きを比較した事例はない。

本研究は、落書きが行われる環境を調べ、落書きの誘発される要因を、物理的環境・対人的環境・心理的環境の3つより明らかにする。また、大人と幼児の落書きの違いについて考察する。

調査は、落書きによって社会的主張や表現をする可能性が少ない子供とし、これまで調査の行われていない幼児を調査対象とする。

八戸市内の各幼稚園にアンケート用紙を配布し、回答を得た後、訪問調査可能な幼稚園にてビデオ撮影による行動調査を行う。

2. 研究方法

2.1 調査概要

本研究は、過去の調査方法に基づいて調査を行う。落書きが行われる要因を物理的環境・対人的環境・心理的環境の3つの面より明らかにする。

物理的環境は、ビデオ撮影による行動調査、アンケート調査、教員へのヒアリング調査を行い、落書きが行われる場所や状況などを明らかにする。対人的環境は、アンケート調査、教員へのヒアリング調査を行い、落書きを行う際の人数構成や集団構成を明らかにする。心理的環境は、アンケート調査、教員へのヒアリング調査を行い、落書きの行われる際に保護者や兄弟などの視線の有無について明らかにする。以上の方法により、幼稚園内と幼児の各家庭において調査を行う。

2.2 各調査地での調査方法

訪問調査可能な幼稚園に対しては、ビデオ撮影による行動調査、教員へのヒアリング調査を行う。ヒアリング調査は、各幼稚園に配布したアンケート項目を基に、より詳細にインタビューを行う。また、訪問調査を行えなかった幼稚園に対しては、アンケート用紙を配布し、文書による回答を依頼した。

各家庭の調査は、各園児にアンケート用紙を配布し、保護者に回答をしてもらい、後日回収した。調査対象は、学校法人八戸工業大学さくら幼稚園に通う園児約200人の家庭とした。

3. 調査結果

3.1 幼稚園内の調査結果

各幼稚園に自由回答のアンケートを実施した結果、回収率62.5%となった。落書きがあると回答したのは50%だった。また、落書きがあると回答した人の中で、どのような箇所に落書きがあるかという質問に対し、テーブル、教具、床の順で、教室内にあるものに多く見られた。また、壁(影)などの目の届かない範囲の回答は少なかった(図1)。

落書きが行われた時間についての質問で多く見られた回答は、クラス活動(午前)をしている時間であった(図2)。この時間は、お絵かきや作品作成などを行う時間となっている。

アンケートの自由記述には、落書きが自己表現のために行われている、身近に筆記用具があると落書きが起きやすい、親や教員が紙や筆記用具を子供に与え、それに落書きではなく、お絵かきとして描かせるべきだという意見が多く見られた。

落書きを行った仲間についての質問は、友達という回答は少なく、単独で落書きを行っているという回答が半数以上だった。また、行動調査で見られた落書きも、教員や仲間が近くにいるにも関わらず、行っていたのは一人で、テーブルへの落書きが見られた。

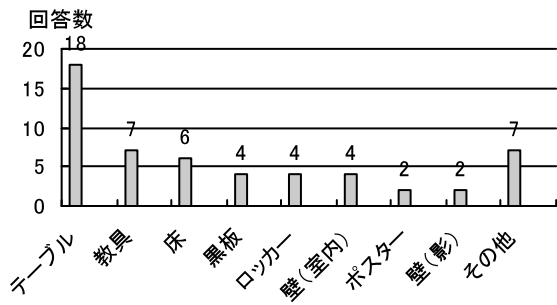


図1 落書きのあった場所

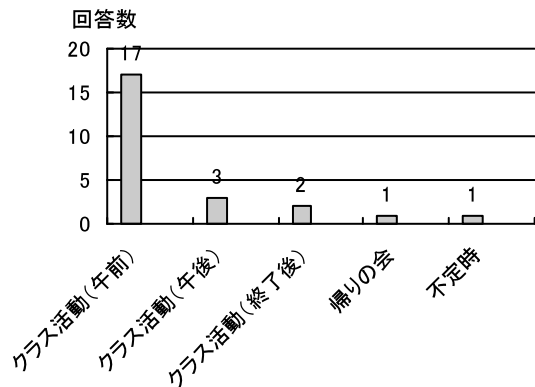


図2 落書きが行われた時間

3.2 各家庭内の調査結果

保護者を対象に選択回答のアンケート調査を実施した結果、回収率74%となった。落書きを行った仲間については、一人で行っていた場合が最も多く見られた(図3)。落書きがあると回答した家庭は59%で、落書きが行われた場所で多く見られたのは居間、台所、子供室の順だった。落書きの箇所についての質問は、壁、床、窓、の順で多く(図4)、91%の家庭が目が届く場所と回答している。また、各家庭へのアンケートの自由記述でも幼稚園と同様の結果が得られた。

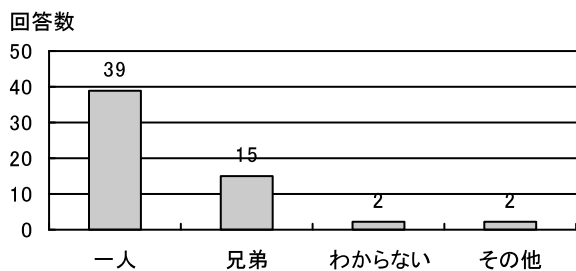


図3 落書きを行った仲間

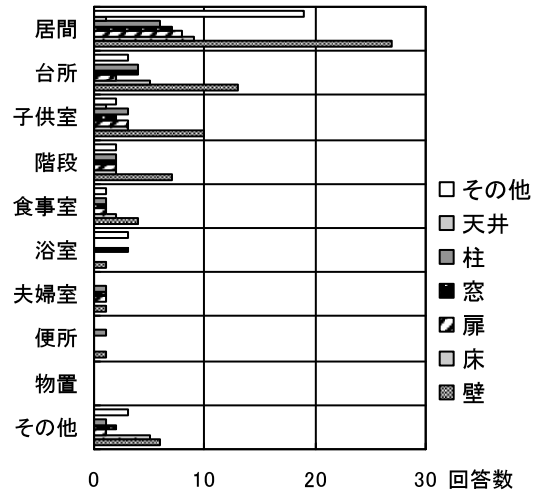


図4 落書きのあった場所

4. まとめ

幼児が行う落書きの物理的環境の特徴は、居間や教室の様に長時間滞在する部屋に多い。描かれる箇所は、テーブルや付近の壁、床など身近なものに多く見られた。対人的環境の特徴は、落書きを行う人数は一人が多く、仲の良い友人や兄弟などを行う落書きは少ない。心理的環境の特徴は、教員や保護者の目の届く範囲での落書きが多い。

幼児の行う落書きは、筆記用具が手の届く範囲にあり、その付近で行われるのではないかと思われる。落書きが一人で行われる理由としては、注目を集めたい、描いたものを見てもらいたいなどが考えられる。

以上のことから、幼児と大人の落書きの違いは、自己の創意主張から一人で行われる。幼児が落書きしやすい環境については、筆記用具が手に届く範囲にあり、幼児にとって身近な箇所が目につきやすい環境で行われやすい。以上のように考えられる。

参考文献

- (1)小林茂雄「都市の街路に描かれる落書きの分布と特徴 渋谷駅周辺の建物シャッターに対する落書き被害から」日本建築学会環境系論文集 No.560 pp.59-64 2002年
- (2)多田広司「パブリック・アートと街の関係」日本建築学会環境系論文集 No.563 pp.43-58 2006年
- (3)小林茂雄「都市における落書きと周辺環境との適合性に関する研究 落書きが周辺景観に対して持つ否定的側面と肯定的側面」日本建築学会環境系論文集 No.566 pp.95-101 2003年
- (4)小林茂雄「落書き防止対策としての壁画制作に関する研究」日本建築学会環境系論文集 No.609 pp.93-99 2006年